

北郷小と目黒区緑ヶ丘小五学生が米づくり体験



4年目を迎えた目黒区緑ヶ丘小学校の角田農業体験学習。北郷小学校の子供たちと力を合わせて稲刈り作業を行いました。

十月十五日から十七日までの三日間、東京都目黒区の緑ヶ丘小学校（稲田正克校長）の五年生三十七名が北郷小学校（小野琢磨校長）五年生と農業体験学習を行いました。

角田市と目黒区は先祖が縁で相互援助協定を結ぶ友好都市で、緑ヶ丘小学校が角田市で農業体験学習を行うのは今年で四年目。今年は五月十五日に田植えを行い、今回は稲刈り作業を体験しました。

【ひとめぼれ三〇アールを収穫】

両校は北郷小学校の南側、三〇アールの水田を「総合学習田」として、おとしから、JAみやぎ仙南角田地区青年部の稲作指導と栽培管理をもらいながら米づくり体験をしており、今年は一ひとめぼれを作付けしました。

今年は冷夏という異常気象にもかかわらず、子供たちが植えた稲はすくなくと、いもち病にも負けない元気な稲に育ちました。

五月に植えた細々とした苗が、百五十日かけてたくましく育ったことに感心しながら、初めて握った鎌を手に、収穫の喜びをしっかりと感じながら稲刈り作業を行いました。

お昼時には、北郷公民館とボランティアサークルたんぼぼ、PTAのみなさんからおいしい芋煮がふるまわれ、子供たちは慣れない作業で疲れた体を癒していました。



最終日には農家見学で、酪農家の渡辺博さん（藤尾）を訪問して乳搾りを体験したり、「総合学習田」の所有者である森谷茂さん（北郷）を訪問して、乾燥調整作業を見学しました。前日に「総合学習田」から収穫した米の乾燥調整作業の行程について説明を受けた後、北郷小と緑ヶ丘小の子供たち全員に五百グラムの新米がプレゼントされました。収穫された米は、両校の学校事業に使用されるほか、緑ヶ丘小学校の学校給食用として利用されます。

このほか、緑ヶ丘小学校の子どもたちは、JAライスセンターを訪問。巨大な乾燥施設と低温貯蔵庫を見学して、米が店先に並ぶまでの乾燥、精米、貯蔵方法などを学びました。